

包括的な学校改善の推進に向けた校長のマネジメント

中核校	小樽市立稲穂小学校	指定校	小樽市立花園小学校、 小樽市立西陵中学校、小樽市立菁園中学校
-----	-----------	-----	-----------------------------------

実践前の状況

- ・ 校長が示す学校経営方針について、重点的な取組を教職員、保護者及び地域住民に周知していたが、重点的な取組を分かりやすく伝え共有する面で十分ではなかった。
- ・ 従来の検証改善サイクルでは、学校を取り巻く教育課題に十分対応することが難しかった。

実践の概要

焦点化を図ったグランドデザインによる学校経営方針の浸透

- ・ 網羅的に示していた従来のグランドデザインとは別に「学校運営推進イメージ」を提示し、学校経営方針とその具現化に向けて、目指す学校像を重点施策で包括的に支え囲み達成していくイメージのデザインで共通理解を図った。

キャリア・パスポートを柱とした協働的・組織的な学校体制の確立

- ・ キャリア・パスポートの項目に目指す子ども像の具体を示し、各分掌・学年・学級がこの具現化へ向け、PDCAを機能させながら活動の充実を図る包括的に学校力向上を推進する体制につなげた。
- ・ キャリア・パスポートに基づき学年・学級経営の検証と改善策を検証し、保護者にも毎月の取組を伝えた。児童もこれに基づき目標設定と振り返りを行い自己調整している。

実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・ 学校運営イメージの柱となる7つの視点で学期ごとに推進状況を検証して改善の方向性を示し、協働的・組織的に推進していくマネジメントを行い、全教職員の学校運営の当事者意識を高めた。
- ・ 授業や教育活動のよさを見取り、モチベーション向上の声掛けを行った。全教職員に周知する際には、指導の方向性として全教職員で協働して実践していくことを働きかけた。
- ・ 各教育活動の場面で、あたたかいかわりと活動で育てる資質・能力を重点化して活動の改善・充実を働きかけた。全教育活動であたたかい学校づくりを目指す学校運営の意識の醸成を図った。
- ・ キャリア・パスポートにより全教職員・全児童がゴールを共有し、教育活動全般で常に教育目標を意識した同じ方向性で活動を推進していけるようにし、学校力の向上を図った。

〔事務職員及び専科教員の取組〕

- ・ 総務（含む事務職員）をコアチームとした教育DXによる働き方改革を積極的に推進し、働きやすさを感じる取組を数多く具現化することができた。
- ・ 専科教員による専科指導では、クラウドでのやりとり等、端末活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業改善への実践に取り組ませるようにした。

成果（ ）と今後の課題（ ）

グランドデザインの推進イメージを共有することにより、様々な教育活動が学校の教育目標の達成に資するものとなり、組織的な学校運営へ全教職員のベクトルをそろえることができた。〔学校評価（教職員）の「教育目標の達成に向け、全職員によるあたたかい児童へのかかわりができた」「分掌部長を中心に継続的・効率的な学校運営に努めている」の項目について、肯定的な評価が100%であった。また、学校評価（保護者）の「学校の情報発信により、学校のねらいやお子さんの様子が伝わっている」の項目について、肯定的な評価が増加した。（R4:92.4% R5:93.1%）

今後さらに、各部が創造的に業務を推進し、教育活動を多面的に活性化していけるような組織となり、「働きがい」をより実感できる学校づくりを進めていく必要がある。



【焦点化を図ったグランドデザイン】



【キャリア・パスポートによるつながり】